

損して得取れ

キーパーズ(有) 社長

よしだたいいち
吉田太一

人生も経営も社会もすべて、バランスが保てたときに継続していく。しかし、多くの人間はその当たり前を見落としやすいようにできている。そして、バランスを崩したことに気づかずに突然停止してしまう——。そんな人間(孤独死)や企業(倒産)が日々大量に発生しています。精神的、機能的、経済的、社会的にバランスが保てているときを「健康」と呼び、健康な状態であれば、多少のバランスの崩れにも強く、あらゆる問題を修正しながら存続できるのです。そのためには、己の状況に見合ったバランスラインを確認するための客観的な視点からのチェックという意識が重要になるのです。

私は弊社の仕事を減らすための取り組み(?)をメディアや講演活動を通じて行なっています。

弊社の「遺品整理サービス」とは、「孤独死」という社会問題が増加すると売上が上がるビジネスです。しかし、「孤独死」を減らすためにCSR(企業の社会的責任)としての取り組みを行なっており、それは自社のイメージアップに繋がると同時に、自社ビジネス機能のリスクや問題の早期発見にも繋がります。

本来、企業は営利を目的として一定の計画に従って経済活動を行なう経済主体でありませんが、そのための直接的なアプローチだけが最良の選択肢ではないということです。

プラスとマイナスの両側面に実際に立ち、それぞれの視点から自社の経営スタイルを常に確認することは、両側面からの強い支えを持つことになり、最終的には依存体質がなくなり、自立度の高い強い体質の理想的な企業になるのです。

弊社が日本初となる「遺品整理サービス」を商品化し、ひとつの新しい業態として社会に認知されました。その経緯には、常に自社の状態管理を行ないながら社会構造の変化に合わせて、プラス、マイナスを確認し、バランスのとれた独自のスタイルを保ち続けてきたことが功を奏していると考えられるのです。しかし、残念なことに現在は「損して得取れ」という経営感覚を持っている経営者が少ないのが現実です。目線が低く目先の利益優先の経営体質を持つ会社がどれだけの多いことかは、周知のとおりではないでしょうか。